

原っ子だより

学校通信 第6号

令和5年9月4日

文責 校長 徳本ひとみ



9月1日、いよいよ2学期のスタートです。

【始業式の挨拶より一部抜粋】

(略)「友あり遠方より来たる また楽しからずや」「楽しからずや」という言葉をもとに、楽しい学校生活と題して3つのお話をします。

1つ目。(略)世界では戦争や災害により学校にいけない子供達もいます。皆さんは今日こうして友達に久しぶりに会え、一緒に楽しく2学期の学校生活を送ることができます。まずはそのことに感謝しましょう。

2つ目。友達と一緒に学ぶことが楽しいのです。(略)また一生懸命やり遂げることはすごく楽しいことです。1学期の運動会はみんなが一生懸命やりとげた、だから楽しかったのですね。おもしろおかしいことだけが本当の楽しさではなく、**友達と一緒に学べること、目標を決めて何かをやり遂げることに本当の楽しさがあるのです。**2学期の大きな行事、学習発表会も目標を決めて友達と一緒に一生懸命頑張ってください。きっと本当の楽しさが待っています。

3つめは皆さんの健康についてです。(略)今日もこのあと学級通信や保健便りが配られ、熱中症や心の健康に関するお話を各学級で先生方がされるとと思います。先生が言われたことや書いてあることを、よく聞いてよくみて下さい。そうして、2学期**皆さんが毎日心も身体も元気で学校に通ってくれることを願っています。**



広島テレビから取材に来られ、始業式の様子と2年1組の学活の様子がニュースで放映されました。

9月1日は防災の日

実践につながる防災教育に向けて!~第2弾~

7月に行った取組ですが、防災の日に改めてこれまでの学習を振り返ってみましょう。

6月号でお伝えしたように、今年度は、「実践につながる防災教育を」という方針のもと、様々な取組により全校児童に防災の意識を浸透させたいと考えています。

7月14日、呉工業高等専門学校環境都市工学部教授河村進一先生と学生の方々5名が本校にお越し下さり原小学校区の防災について考える出前講座を行って下さいました。具体的なねらいは次の2点でした。

- ・平成30年7月6日に発生した「平成30年7月豪雨」を教訓として、命の尊さを学び、自然災害から自分の命は自分で守る児童を育てる。
- ・自分が住む地域に起こりやすい災害や、災害時の避難場所や避難の仕方について理解させる。



河村先生と学生の方々が自己紹介をして下さいました。



大雨による被害は崖崩れや土石流による土砂災害、川の水があふれる洪水があるということをまずはわかりやすく教えて下さいました。





河村先生は講話後の感想や疑問を児童に優しく尋ねて下さいました。



自分の住んでいる地域に分かれて地図に書き込んでいました。「危険な場所はある？どの道を通って避難すればいい？」



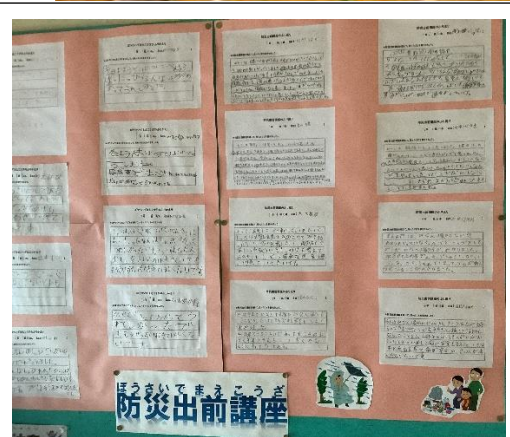
呉高専の学生の方々も担当に分かれてたくさんアドバイスを下さいました。

地域に分かれて発表をしました。



全校児童がこの出前講座を受けての振り返りを書いたので掲示しました。

【児童の振り返りから一部抜粋】河村進一先生のお話を聞いてわかったことは、土砂災害になったら水を止めるダムも埋もれてしまったり、川でないところにも水や土砂が流れてしまったりすること、あとは自分の家が安全な場所にあるのかどうかということがわかりました。自分の家は防災グッズを置いてないので置いておこうと思いました。(4年児童)



【児童の振り返りから一部抜粋】過去の災害やハザードマップを使って避難場所や自分の家は危険かどうかということを学習しました。この原小の近くでも大きな災害が起きたと聞いて、以前はそんな簡単に災害は起きないと思っていたけれど、身近に災害は起きるという考えに変わりました。(6年児童)

【児童の振り返りから一部抜粋】災害の時には水やカップラーメンやいろんな物を準備します。避難する時は長袖で行くということがわかりました。(3年児童)

夏休み8月8日、阿賀町づくりセンターで行われた「子ども防災ランド」に、5、6年生の児童5名が自ら参加しました！



呉市防災リーダーの難波佳子様から、防災テントやエアベッド、仕切りの設営の仕方等を学びました。とても楽しくて学びの多い活動だったそうです。お世話になった皆様本当にありがとうございました。今後もこの学びを原小学校全員の学びにつなげていきたいと思ひます。

新学期が始まりました。「ふれあい相談窓口」(毎月第3火曜日)を設けております。お子様の心や身体のことなどで気がかかるといふことがあれば、遠慮なく学校にご相談ください。
電話番号 0823-71-7756 相談窓口 下河原教頭 胡生徒指導主事 長濱養護教諭